

※日曜の朝の坐禅会

毎週日曜日の朝六時から七時まで、松岩寺本堂での坐禅に一般の方も参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください。初心の方にも丁寧に坐り方をご案内します。三十分ほど坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時には終わりです。

※各家墓所の改修時は

各家の墓所を大きく改修する時は、施工する石材店に工事をする上での注意事項などがありますので、寺にご連絡ください。なお、墓地を整備したため、十カ所ほどの新しい区画があります。ご親戚やお知り合いが必要とされる方がおられましたら、お領けすることができます。詳しい事は寺へ直接連絡ください。

※年忌法要後の食事は寺でもできます

壇信徒会館（三階建）は、年忌法要後のお食事にお使いいただけます。壇信徒会館の二階は椅子席で十八席。三階は畳に座布団で四十名くらいまで会食できます。お使いください。

※教養講座

【金つぎ教室】 日程 講師 花輪滋實

第三土曜日 午後一時半～四時半まで

【仏像を彫る会】 日程 講師 高野竜生

午後一時半～四時半まで

原則として第二・四日曜日です。

【声を出して元気になる】 不定期 講師 加藤純子

ちよつとながめの

編集後記

尊敬する禅僧が洒脱に語った、次のような話が忘れられない。

歴史や美術を学んでいる者が寺へやってくる時、こんな質問をする。

「お寺の歴史は」

「そんな輩にはこう答えてやる。

「粉飾された寺史など興味はない」

「ならば寺宝は」

「田舎寺ゆえそんなものはありはしない。強いて言えば、この住職が宝だ」

今は亡き大先輩が語ったように、寺史に素顔の歴史は少なく、ある意図のもとに厚化粧されているものです。だから、八百年前の武将が建てた寺がどうのこうのと聞かされても、「それが何なんだい。大事なのは今じゃないか」とうそぶいてしまう。そして、言ってみたいね。

「この住職が宝だ」なんて台詞。

松岩寺は歴史もお宝もありませんが、いくつもある墨跡を紹介するコーナーを一昨年から始めました。すでに書きましたが、これってあまり趣味がよくないですね。見せびらかして自慢たらしめて。それで前回から少し軌道修正しています。身近にあるものばかりではなくて、色いろなところに題材を求めていきます。墨跡ばかりでなくて、街にある看板から禅を説き、仏教を学ぶ、なんていうことができたらよいのですが、難しいかなあ。

今回は富岡鉄斎筆の「火要鎮」をとりあげました。少し季節外れの感もします。お正月にお配りする「火の要慎」と一緒に書けばグッドタイミングなのですが、個人的には今回は、書く

季節だったのです。

八月末に、今秋の本山参拝旅行の下見をかねて京都へ行きました。京都に住む人から、「何も暑い季節に京都へ来なくても」と呆れられたけれど、「平気だよ。日本一暑い熊谷から来たのだから」と言うのと納得してもらえました。暑い京都ですが、時間を作って行ってみたいところがありました。愛宕山です。京都市の西方にある標高924メートルの山です。頂上には、火伏せの神社、愛宕神社があります。京都のお寺や古い町家には、愛宕神社の「火廻要慎」のお札がよく張られていますし、京都の禅の修行道場では毎年、このお札をいただきに、若手の修行僧が山を登るのです。私は京都の修行道場ではなかったたので登ったことはありませんでした。

登山道の始点の標高が80メートルくらいです。一気には850メートルを登ることになります。これってきついことです。実際、しんどかった。山ガールに追い越されながら、二時間半かけて頂上にたどり着いて、「火廻要慎」のお札を求めました。

おかげで贅沢な旅行をさせてもらいました。だって、京都まで行って、普通の名所旧跡にはそっぽを向いて、電車とバスを乗り継いで、山へのぼって、お札一枚もらうために一日を費やすのだから、贅沢ですよ。

京都には年に数回行くけれど、最近は大クシにほとんど乗りません。歩くのが良いけれど、それが無理ならばバス。真つ暗な車窓の地下鉄でも、中つりポスターをみていると、古都の今の情報がはいってきます。

お盆の時にお知らせしましたが、タクシーなんかには頼らず、半日かけて一つのお庭をみて歩いてという、本山参りの旅を企画したら、十数名の方が応募してくださいました。ご期待にこたえなくは！秋がやってきます。

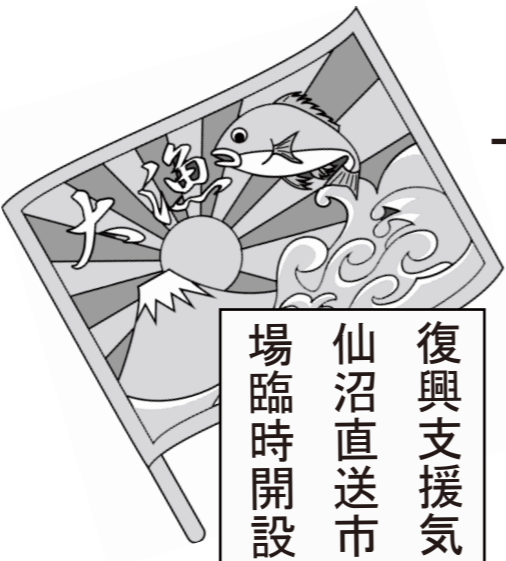
平成二十四年秋彼岸 松岩寺だより

平成二十四年秋彼岸

発行 花岡博芳

昼食に粗飯をご用意いたします。ご出席の方は電話・FAX等でご連絡ください。

復興支援気 仙沼直送市場 場臨時開設



九月十七日 (敬老の日) 十一時 彼岸法要 (法要後) 気仙沼の地福寺住職・片山秀光和尚がジャズドラム・津軽三味線・キーボードの節にのせて語る音楽法話

- 語りべ 片山秀光住職
ジャズドラム バyson片山
津軽三味線 富塚 孝
キーボード 岸 淑香 他

正午すぎ終了

9月19日(水)から23日(日)まで、墓地ではお花とお線香を用意しています。



気仙沼市地福寺片山秀光住職迎えるの節語り説法です。海岸線から五百メートルほどしか離れていない地福寺は昨年の大震災で本堂の基礎と柱だけのことにして、すべてを流されます。未だ再建なかばですが、片山秀光住職は「今、語らねば」と、請われるままに全国をかけ巡っています。当日は松岩寺の庭で、気仙沼の海産物も販売します。ご家族おそろいで、おでかけください。